

No. 40	昭和53年12月15日発行 編集者：後藤光男 〒591
ねじればね	堺市百舌鳥西之町1丁98の2 陵南団地1号棟116局 電話：堺(0722)57局7009番
December, 1978	日本甲虫学会 〒658 神戸市東灘区御影山手2丁目19-8 大倉正文方 電話：神戸(078)811局2706番

廃物の利用

後藤光男

消費経済が進み、使い捨ての風潮が高まるにつれ、各所で汚物公害が示々される現代において、廃物利用という言葉は死語化したようなものである。

昆虫の採集・整理用具はビニール・ポリプラスチック製が巾をきかしてきた以外あまり戦前とは変わっていないように思われる。

私はこれまで本誌上で廃品を利用した2・3の用具について書いたが、まだ案外身近で本来捨て去られている物で現在私が活用している数点について書いて見たい。

・タバコの外装セロファン紙

紙巻タバコの外装セロファン紙の横と底の貼合せ部を切り取ると13.5×7.0程度の紙片となるので、如何のようにも使い方ができる。私はオサムシ類の紙包標本にしたり、又四角に折って小甲虫の保存用に使っている。

・トイレットペーパーの巻芯

トイレットペーパーの巻芯は殆んどφ4.0×11.5程度の粗厚紙でできているが、これを等寸で2～3に輪切して必要な広さの厚紙に縦並びに貼り付ける。これは採集してまだ整理のできない管瓶を収容するのに便利であり、又回転日付入りゴム印を立てておくのにも大変重宝である。

・セロテープの巻芯

セロテープ・スコッチテープは12～18耗巾のものが広く使用されている。この巻芯は厚手のボール紙製で外側は白紙、内側はブランド名を印刷した紙が貼られている。この内側に巾だけの白紙を貼り、底に美濃表紙厚の白紙を貼って、外側に沿って丸形に切り

取ると、シャーレーができる。紙製であるので実験・飼育用具には不向であるが、中・小形の甲虫類の整肢乾燥用には重宝である。又荷造用の巾広テープの巻芯は高さもあって、前述の方法で底を作れば管瓶類の保管も重宝である。

・各種容器類

これまでセルロイドが粗悪なベークライト製しか知らなかった我々に、戦后になって石油を軸とするビニール・プラスチック等の合成樹脂製品を見ることができるようになり、年を追ってその利用範囲も広まりあらゆる分野にまで及んできた。戦前のトラップ採集といえば缶詰の空缶が主流であったが、戦後は空缶よりも、むしろ軽い上嵩ばらなくて携帯に便利なビニールコップがとって変わったようである。空缶はビール・酒に加え精涼飲料のものが、行楽地では持参しなくても拾い集めて利用することも可能な程に氾濫している。我々が日常生活に必要な食料品・調味料・嗜好品類の外装はすべて化合製品であるといっても過言でないが、その容器の利用法も案外広く利用できるのではないだろうか。縦型の丸い容器であれば必要部分のみ切り取ってトラップ用に利用できる。私はアイスクリームと味噌の蓋付丸形容器の蓋の中央に $\phi 1$ 程を穴をあけて、仕掛ける際に穴の部分を残して埋め込んだが、案外面白い成績が得られた。化合製品の容器では捨てるには惜しい手頃で美しいものも少なくないので利用されている筈である。名刺のプラスチック容器は針・台紙・ラベル等の小物の整理に大変便利であり、3.6 耗フィルムの外装容器は蓋の凹部に小穴をあければ、生品を持ち販ったり送ったりするのに便利であり、菓子容器の中でも筒状のものも利用範囲が広いが、酷酸エチル等を使用すると溶解するものもあるので、殺虫管への代用は無理なようである。

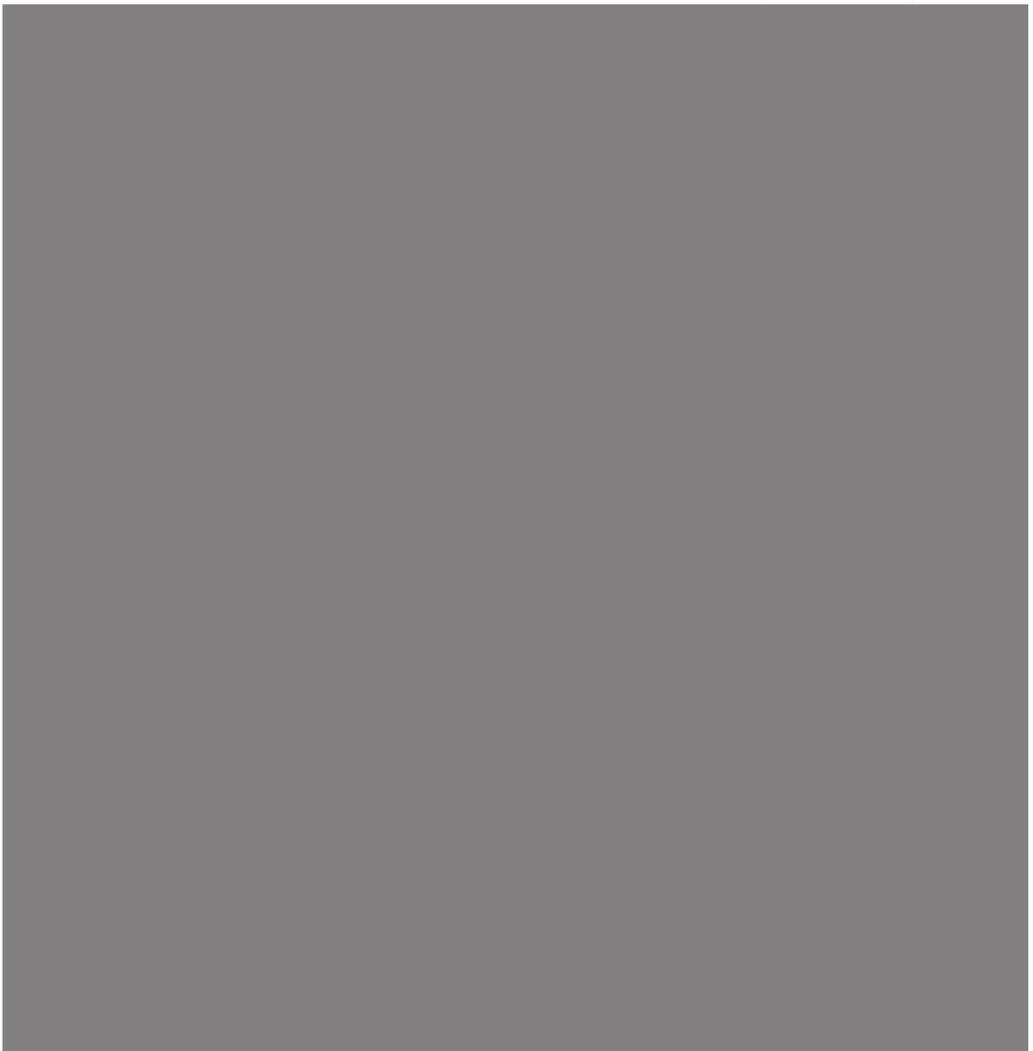
第 3 3 巻の会費は 3.000 円です

昆虫学評論第 3 3 巻は昭和 5 4 年 6 月ごろ発行の予定です。同封の振替用紙により、なるべく早い目にご納入下さるようお願いいたします。

新 入 会 員



住 所 変 更



退 会

” 昆虫学評論 ” バックナンバー価格表

当会のバックナンバーの価格は下記のとおりです。なお、各巻の1号または2号の分冊
売りはいたしません。

第1巻第1号及び第2号と第4巻第2号(他はすべて欠号です)全部では	3.000円	
第5巻第2号(第1号は欠号です)(残4部のため第5(2)~10巻をま とめて購入される方に限ります)	5.000円	
第6~10巻	各巻はそれぞれ1.000円	全部では5.000円
第11~15巻	” ”	” 5.000円
第16~20巻	” ”	” 5.000円
第21~25巻	” 1.500円	” 7.500円
第26~27巻	” 2.000円	” 4.000円
第28~29巻	” 2.500円	” 5.000円
第30巻		3.000円

} 5冊で計
12,000円

総目録：第1~10巻、第11~15巻、第16~20巻、第21~25巻、第26巻
~第30巻をそれぞれまとめて購入される場合は、その当該目録は無料で差し
あげます。ただし目録のみご希望の場合はそれぞれ200円5冊計1,000円
です。送料はすべて学会で負担しますから無料です。

昭和52年度 収支決算書

自 昭和52年 1月 1日
(至 昭和52年12月31日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	936.600 円	印 刷 費	772.300 円
バックナンバー代	83.800	通 信 費	104.190
別 刷 代	14.200	消 耗 品 費	8.060
図 鑑 印 税*	81.472	大 会 費	47.248
雑 収 入	45.029	雑 費	1.300
預 り 金	2.000	預り金引当金	2.000
前期繰越金	628.501	次期繰越金	856.004
計	1,791,102	計	1,791,102

* 現在までに学会へ繰入れられた印税合計 1,653,696円

特別会計収支計算書

(会報発行基金)

昭和52年

1. 1	前期繰越金		865.263
1. 20	45万円貸付信託収益金	(51. 7.20~52. 1.19)	13.104
3. 26	金銭信託収益金	(51. 9.26~52. 3.25)	1,899
5. 20	3.5万円貸付信託収益金	(51.11.20~52. 5.19)	10,192
7. 20	45万円貸付信託収益金	(52. 1.20~52. 7.19)	13,104
9. 26	金銭信託収益金	(52. 3.26~52. 9.25)	1,610
11. 20	40万円貸付信託収益金	(52. 5.20~52.11.19)	11,648
12. 31	次期繰越金		916.820

— 原稿募集について —

「昆虫学評論」の原稿を募集します。甲虫関係には限りません。少々長文でも結構です。表紙裏の投稿規定をご熟読のうえ、どしどしと投稿下さい。ただし、図版はできるだけ、横20cm、縦30cmにアレンジして下さい。また、本文中の図はその挿入個処を必ず原稿の欄外に明記するとともに、図の説明は本文の末尾（図版がある場合には図版説明の後）か、別紙に図の番号順に記入して下さい。

和文原稿の場合は、なるべく当用漢字を使用し（専門語は別）、句読点（、。）を使わず、必ずコンマ・ピリオドを使用して下さい。なおまた、短報もどしどしと投稿下さい。

（最近、図を書きばなしで、未整理のままの投稿が時々ありますが、必ず図版に作成して下さい。）

— 標本整理の用具を各種取揃えています —

- 好評を得ましたデーターラベル印刷用極小活字セットは主要文字と80年までの数字を増し基準セットとして在庫しています。（新鑄造品1セットのみ）
- 標本用各種ラベルの内K（灯火採集表示用）とO（二重線枠のみの任意表示用）はコマ数を増して新しく印刷しました。他は従来通りです。詳しくは既刊号を参照下さい。

— 見本（〒50円）・価格は後藤までご照会下さい —

あ と が き

前号にて予告しておりましたとおり、ここ許「昆虫学評論」第3.2巻をお手許にお届けすることができました。昭和54年中に第3.3巻と第3.4巻の2冊をお届けする予定であります。前号で福岡市内の水不足について触れましたが、9月12日より4日間の予定で所用のため九州に出張しました。給水制限も少しく緩和されたとはいえ、水不足の不自由さを体験してきました。出張中の15日には福岡市内で台風18号の直撃に会い、瞬間最大風速46.5米の恐しさも目のあたり見てきました。台風のために全交通機関が停止し、その上断線によって交通信号も消えるという事態で、自然の力の前では文明も儂いものと痛感しました。これに先立ち9月5日より3日間東京・山梨に出掛けましたが、甲府では40数日も雨が降らないので桑の生育が悪く養蚕を断念した農家もあると聞きました。又手入れの行き届かないブドウ畑では、房の基部はブヨブヨであり先端は干し上っているという状態でした。今夏は各地とも熱帯夜の活学が新聞を賑わしましたが、やはり四季の気温は暖かく、暑く、涼しくなって寒くなるというサイクルであり、その上四季に応じた降雨量があるという自然の法則に戻って欲しいものです。78年も暮れてゆきますが、79年の四季は正常で推移することを希りと共に、会員諸兄がよき新年を迎えられ尚一層のご活躍をされることを祈っております（G）